

しめ飾り作り文化継承

丸亀市沖の本島・笠島地区で6日、住民と島外から参加した学生らが力を合わせて正月準備を行った。島の生活文化を継承する取り組みの一環で、学生らは島特有のしめ飾り作りを体験し、住民たちは活気ある師走の雰囲気を楽しんだ。

丸亀・本島の笠島地区



島の住民に教わりながらしめ飾り作りに挑戦する学生ら
＝丸亀市本島町

学生参加、仏アーティストも

同地区では人口減少や高齢化の影響で、祭りなどの行事ができなくなっていた中、一昨年、NPO法人「香川歴史的建造物保存活用会議」のメンバーが中心となって伝統文化を継承する活動をスタート。四国職業能力開発大学校や香川大とも連携し、島の住民と協力して地元の太鼓台をはじめ、さまざまな季節の伝統行事を復活させている。

しめ飾り作りは昨年に続いて実施。同大学の学生や保存活用会議メンバー、

笠島地区の住民ら約40人が参加した。

尾上神社境内にある笠島集会所に集まり、島のお年寄りが講師役となって作り方を伝授。参加者は、本島のしめ縄は一般的な左巻きとは逆の右巻きでわらを編むことなどを教わりながら、稲わらやイグサでしめ縄を作り、ナンテンの実や

師走 かがわ

ウラジロ、紙垂などを付けて完成させた。

指導役の中心を担った高倉トヨ子さん(87)は「若い人たちと楽しくでき、すごくいい催し。来年も頑張らなきゃ」と笑みを浮かべ、

同大学校住居環境科2年の十河晃琉さん(20)は「普通に暮らしていたら経験できなかった文化。来春に就職した後も島のイベントに参加したい」と話した。

この日は、保存活用会議メンバーとのつながりで、フランス人アーティスト4人も飛び入り参加。日本の伝統文化を体験し、「難しかったけど、地域の方が丁寧に教えてくれてうれしかった」「人と人のつながりを感じられて良かった」などと関心を寄せていた。